

ロールシャッハ・テストの各カードに対する健常者の一般的な反応傾向

メタデータ	<p>言語: Japanese</p> <p>出版者: 明治大学文学部心理社会学科</p> <p>公開日: 2021-05-28</p> <p>キーワード (Ja):</p> <p>キーワード (En):</p> <p>作成者: 高瀬, 由嗣</p> <p>メールアドレス:</p> <p>所属:</p>
URL	http://hdl.handle.net/10291/21749

〔原 著〕

ロールシャッハ・テストの各カードに対する 健常者の一般的な反応傾向

高瀬 由嗣¹

要 約

本研究は、432人の健常者の与えたロールシャッハ反応から、主として各カードに対する反応の一般的な傾向を検討した。検討の材料としたのは、各カードに対する好悪、その際に述べられたカードの印象や感想、反応拒否や失敗のあり方、反応数、反応時間、そして領域・決定因・内容という諸点である。統計データに基づき、健常者の反応パターンを詳細に分析したところ、全10枚のカードそれぞれの特徴が鮮明に浮かび上がった。本研究から得られた結果は、系列分析の基礎資料として役立つと考えられた。

キーワード：ロールシャッハ・テスト、健常者、規準データ

池田（1981）は、心理テストを次のように定義する。「能力、知識、技術、その他の心的特性の存否や程度を明らかにする目的で、一定の条件下にあらかじめ定められた問題や作業を課し、被検査者の行動やその成果を所定の観点から一定の標準に照らして質的あるいは量的に記述する組織的方法をさす」。この一文に明確に示されたように、テストから得られた結果は、何らかの標準——換言すれば規準（norm）——を参照しながら分析・解釈されねばならない。

ロールシャッハ・テストも例外ではない。米国ではこれまでも、大量の健常者（非患者）データに基づいた規準構築の努力がなされてきた。とりわけExner（2003）は、大規模な非患者群のデータに基づく詳細な統計データを公表し、これを

ロールシャッハ・テストの分析・解釈の基礎とした。その後、Exnerの示した規準データを補完すべく、Meyerらが世界的な規模で幅広く、特定の地域や文化、教育水準等の偏りの少ない、1396人からなる「国際規準標本」を確立し、公表したことは記憶に新しい（Meyer, Viglione, Mihura, Erard, & Erdberg, 2011）。

わが国においては、高橋らのグループが包括システムに基づく一連の統計データを公表している。高橋らは2002年に400人の健常者から得られた大量のデータをもとに、各カードの様々な領域に与えられた反応内容の頻度をまとめた形態水準表を公表した（高橋・高橋・西尾，2002）。その7年後には、このデータに100人を加え、総勢500人の情報に基づいた新たな形態水準表を発表して

1 明治大学文学部心理社会学科 専任教授

いる（高橋・高橋・西尾, 2009）。さらに、同グループの西尾が中心となり、2017年には健常者400人から得られたきわめて詳細なデータ（包括システムを構成する各変数の基本統計量、ならびに各カードにおける反応の出現頻度等）を公刊するに至っている（西尾・高橋・高橋, 2017）。ここで公にされたデータは、包括システムによって実施された各人の反応を照らし、それぞれの特徴を分析するのに大いに役立つ資料である。

一方、わが国において使用者の多い片口法に関しては、規準データと呼べるものが公表されているとは言い難い。1987年に公刊された解説書に、健常者のデータに基づいた各カードの特徴が記されているが、このデータがいつ、誰を対象に、どのような形で得られたのか詳細に記述されていないし、どれほどの数が得られたのかも不明である。つまり片口法においては、規準データの公表に係る認識がやや乏しいと言わざるを得ない。

こうした背景から筆者は、片口法によって実施されたデータを広く収集し、その統計量を公表する必要性を強く感じた。そこで本研究は、健常者に対して幅広く、そして数多く実施されたロールシャッハ反応の統計データを示すこととした。わけでも、各カードの反応特徴を押さえておくことは、系列分析には必要不可欠な要素である。そのため本研究では、各カードに対する反応の統計データを詳細に示し、それに基づき、各カードの特徴を検討することを主たる目的とした。

対象者

データは、2002年から2014年に行われたロールシャッハ・テストのデータベース構築に関する研究（日本学術振興会科学研究費採択研究 14710090, 16530456, 19530632, 22530764, 研究

代表者：高瀬由嗣）に同意のうえ参加した207人、および高瀬によって行われた、それ以外の研究（1992年～2019年）に参加し、規準データとしてテスト結果を使用することに同意を得た225人のロールシャッハ反応に基づいている（合計：432人）。すべての参加者に対して、テスト時に簡単な面接を行い、身体および精神の重篤な既往歴のないことを確認している。

参加者の性別の内訳は男性が156人、女性が276人、同じく平均年齢は29.5歳（SD=14.8）、平均教育年数は13.9年（SD=1.7）であった。表1には、参加者の受けた教育や年齢の内訳を示した。

この表を見ればわかるとおり、参加者には大学在学者の数が多く、結果として全体の平均年齢を引き下げている。また、その教育水準はわが国の一般的なそれに比しやや高い。つまりこの標本は、全般に若く、しかも比較的学歴の高い層に偏って構成されている。それゆえ、各人のテスト結果を量的に分析するにあたって、後述の表2を活用する際には、標本の偏りに留意する必要がある。しかし、同一の標本内における反応傾向をカードご

表1. 対象者 (N=432) の属性

	平均 (SD) および内訳	
性別	男性：156人	女性：276人
平均年齢 (SD)	29.5歳 (14.8)	
年齢の構成	18～19歳	33人 (7.6%)
	20～29歳	269人 (62.3%)
	30～39歳	49人 (11.3%)
	40～49歳	22人 (5.1%)
	50～59歳	27人 (6.3%)
	60～69歳	22人 (5.1%)
	70～79歳	8人 (1.9%)
	80～89歳	2人 (0.5%)
平均教育年数 (SD)	13.94 (1.7)	
教育水準の構成	中学校卒	6人 (1.4%)
	高等学校卒	45人 (10.4%)
	短大専門学校卒	26人 (6.0%)
	大学在学中	255人 (59.0%)
	4年制大学卒	75人 (17.4%)
	大学院在学中	11人 (2.5%)
	大学院修了	14人 (3.2%)

とに比較検討していくという方式（後述の表3、表4、表5）は、少なくとも各カードの特徴を検討するうえで有効な資料となることは間違いない。

各表について

反応のスコアリングに際しては、必ず複数の専門家の目を通して、その適否をチェックした。432人すべてのプロトコルにこの手続きを踏み、最終的なスコアリングの決定は高瀬が行った。その後、各人のスコア結果を、片口（1987）の手続きに従って、要約表にまとめた。表2に示したのは、この要約表から得られた健常者432人の各スコアに関する基本統計量である。

表3には、各カードに対する初発反応時間（RIT：カードが提示されてから最初の反応が与えられるまでの時間）および反応時間（RT：カードが提示されてから、そのカードの反応を終えるまでの時間）の平均およびSDを示した。

表4は、全10枚のカードに関する好悪の選択な

らびに、その際に得られた各種コメント（印象や感想）などをまとめたものである。ここには、好きなカードとして選択された頻度、および嫌いなカードとして選択された頻度を順位に並べ替えて表示してある（カッコ内に選択した人数と割合を示した）。なお、好悪の選択や感想の聞き取りは、テスト終了後に行うものであるが、これはテスト実施の標準的な手続きの中には含まれていない。あくまでも補助的な位置づけである。したがって得られたデータには限りがあることを付記しておく（実際、「嫌い」の選択に関する有効回答は293人、「好き」の選択に関する有効回答は265人であった）。

最後の表5は、432人が与えた反応をカード別に示したものである。この表には主なロールシャッハ変数の平均値、SDおよび出現率（それぞれの反応を1つ以上与えた人の数が432人の中に占める率）を示した。

表2. 健常者群（N=432）における基本ロールシャッハ変数

変数	平均	SD	最小値	最大値	中央値	Q2	Q4	標準誤差
R	25.34	13.06	8	96	22	16	31.25	0.63
W	11.39	6.09	0	50	10	7	14	0.29
Wc	1.79	2.2	0	18	1	0	3	0.11
DW	0	0.05	0	1	0	0	0	0
W (total)	13.19	6.95	2	63	11.5	9	16	0.33
W%	56.83	22.29	9.62	100	57.14	38.4	75	1.07
D	8.46	6.75	0	45	7	3	12	0.32
d	0.59	1.28	0	10.5	0	0	1	0.06
D (total)	9.05	7.55	0	47	7	3	13	0.36
dd	0.1	0.43	0	4	0	0	0	0.02
de	0.02	0.15	0	2	0	0	0	0.01
di	0.09	0.4	0	4	0	0	0	0.02
dr	2.46	3.11	0	31	1.5	0.38	3	0.15
Dd (total)	2.67	3.52	0	32	2	0.88	4	0.17
S	1.63	1.8	0	12.5	1	0.5	2.5	0.09
F	11.05	7.49	0	44	9	6	15	0.36

表2 (つづき). 健常者群 (N=432) における基本ロールシャッハ変数

変数	平均	SD	最小値	最大値	中央値	Q2	Q4	標準誤差
F %	42.31	16.5	0	82.35	42.11	30.77	53.39	0.79
M	4.48	3.69	0	28.5	4	2	6	0.18
FM	3.42	2.65	0	18	3	1.5	4.63	0.13
Fm	0.42	0.81	0	6	0	0	1	0.04
mF	0.22	0.54	0	4	0	0	0	0.03
m	0.52	0.72	0	5	0.5	0	0.5	0.03
mF+m	0.74	0.91	0	6	0.5	0	1	0.04
m (total)	1.16	1.36	0	9	1	0	1.5	0.07
FK	0.95	1.24	0	13	0.5	0	1.5	0.06
KF	0.23	0.47	0	3.5	0	0	0.5	0.02
K	0.01	0.07	0	1	0	0	0	0
KF+K	0.23	0.48	0	3.5	0	0	0.5	0.02
K (total)	1.19	1.46	0	14.5	1	0	1.5	0.07
Fc	1.25	1.63	0	10	1	0	2	0.08
cF	0.27	0.59	0	4	0	0	0.5	0.03
c	0	0.03	0	0.5	0	0	0	0
cF+c	0.27	0.59	0	4	0	0	0.5	0.03
c (total)	1.53	1.9	0	11	1	0	2	0.09
FC'	1.11	1.29	0	7	1	0	1.5	0.06
C'F	0.08	0.26	0	2	0	0	0	0.01
C'	0	0.06	0	1	0	0	0	0
C'F+C'	0.09	0.27	0	2	0	0	0	0.01
C' (total)	1.2	1.35	0	7	1	0	2	0.07
FC	2.16	1.84	0	11	2	1	3	0.09
F/C	0.16	0.5	0	5	0	0	0	0.02
CF	1.56	1.71	0	12	1	0	2.5	0.08
C/F	0.04	0.18	0	1	0	0	0	0.01
C	0.01	0.1	0	1	0	0	0	0
Cn	0	0	0	0	0	0	0	0
Csym	0.23	0.54	0	4	0	0	0	0.03
ΣC	3.13	2.53	0	19	2.5	1.5	4	0.12
FCp	0.05	0.23	0	2	0	0	0	0.01
CpF	0	0.04	0	0.5	0	0	0	0
Cp	0	0.05	0	1	0	0	0	0
Cp (total)	0.05	0.26	0	2	0	0	0	0.01
H	2.85	2.18	0	15	2	1	4	0.1
(H)	1.24	1.53	0	11	1	0	2	0.07
Hd	1.85	2.37	0	20	1	0	2	0.11
(Hd)	1.09	1.29	0	8	1	0	2	0.06
H (total)	7.04	4.99	0	39	6	4	9	0.24
A	6.86	4.01	0	29	6	4	8.5	0.19
(A)	1.17	1.37	0	7	1	0	2	0.07
Ad	2.52	2.42	0	14	2	1	4	0.12

表2 (つづき). 健常者群 (N=432) における基本ロールシャッハ変数

変数	平均	SD	最小値	最大値	中央値	Q2	Q4	標準誤差
(Ad)	0.52	0.83	0	5	0	0	1	0.04
A (total)	11.08	6.08	1.5	38	10	7	14	0.29
A%	44.52	13.37	11.76	86.67	44.12	35.29	52.63	0.64
Atb	0.28	0.54	0	3	0	0	0.5	0.03
Ats	0.25	0.54	0	3.5	0	0	0	0.03
X-ray	0.06	0.25	0	2	0	0	0	0.01
A.At	0.06	0.27	0	2	0	0	0	0.01
Sex	0.06	0.35	0	5	0	0	0	0.02
Anal	0.03	0.21	0	3	0	0	0	0.01
Aobj	0.43	0.58	0	3.5	0	0	1	0.03
Plf	0.73	1.04	0	5.5	0	0	1	0.05
Pl	1.01	1.17	0	6	1	0	1.5	0.06
Na	0.75	1.07	0	8.5	0.5	0	1	0.05
Obj	1.51	1.88	0	15.5	1	0.5	2	0.09
Arch	0.71	1.18	0	12	0	0	1	0.06
Map	0.12	0.41	0	4	0	0	0	0.02
Lds	0.33	0.7	0	8	0	0	0.5	0.03
Art	0.13	0.37	0	2	0	0	0	0.02
Abst	0.28	0.81	0	9.5	0	0	0	0.04
Bl	0.13	0.32	0	2	0	0	0	0.02
Cl	0.16	0.44	0	4	0	0	0	0.02
Fire	0.54	0.8	0	4	0	0	1	0.04
Expl	0.1	0.29	0	2	0	0	0	0.01
Food	0.45	0.85	0	5.5	0	0	1	0.04
Music	0.52	0.61	0	3	0	0	1	0.03
P (total)	5.03	1.86	1	10	5	4	6	0.09
WIX%	33.25	7.4	15	66.67	33.07	28.57	37.5	0.36
R+%	79.58	12.28	30	100	81	72	89	0.59

表3. 各カードにおける初発反応時間 (R1T) と
反応終了時間 (RT) (秒)

	R1T	(SD)	RT	(SD)
I	14.14	(19.94)	83.8	(53.28)
II	20.4	(22.88)	82.28	(48.01)
III	16.03	(23.78)	82.76	(55.77)
IV	21.51	(26.46)	86.06	(60.33)
V	14.34	(22.24)	71.32	(53.39)
VI	22.73	(27.61)	92.16	(67.16)
VII	19.89	(31.09)	91.77	(67.29)
VIII	22.3	(26.04)	104.11	(76.11)
IX	28.86	(28.84)	111.44	(78.26)
X	25.81	(35.54)	136.8	(104.4)
NC	18.12	(17.58)		
CC	22.17	(19.99)		

※NC：無彩色カード CC：彩色カード

表4. ロールシャッハ・カードの好悪選択にみる順位

順位	嫌いなカード (人数/出現率) (N = 293)	好きなカード (人数/出現率) (N = 265)
1 位	II カード (66人/22.5%) 血のイメージ (15件), 赤が嫌い・赤と黒が強烈 (14件), 気持ち悪い (4件), 怖い (2件), 不気味 (2件), 汚い (2件), 悲しい (2件), 生々しい, 攻撃的, 切斷・危険, ほか	X カード (80人/30.2%) 楽しい (18件), カラフル・綺麗 (17件), 明るい (8 件), にぎやか (6件), 鮮やか (3件), 華やか, 陽気, 暖かい, 躍動感がある, ほか
2 位	IV カード (52人/17.7%) 暗い・暗黒・濃い・うっそうとした (11件), 怖い・不気 味 (9件), 圧迫感・威圧的 (8件), 難しい・わかりにくい (6 件), 悪い (3件), 権威的, 重い, ほか	VII カード (40人/15.1%) 綺麗 (9件), 明るい・鮮やか (4件), 色が好き (5件), 調和している・まとまりがある (7件), つながりが ある (2件), シンプル・はっきりしている (2件), ほか
3 位	I カード (39人/13.3%) 悪魔的・悪い・邪悪な (7件), 暗い・黒い (7件), 怖い (5 件), 不吉・不気味 (5件), 色や形が嫌い (5件), 気持ち 悪い (4件), ほか	VI カード (34人/12.8%) かわいい (12件), ほのぼの・平和的 (5件), 楽し い (5件), やさしい・やわらかい (3件), 明るい (2 件), 淡い (2件), あたたかい, ほか
4 位	IX カード (29人/9.9%) あいまい・わかりにくい (8件), 汚い・綺麗ではない (2件), 怖い (3件), ほか	IX カード (31人/11.7%) 色が好き (5件), 綺麗 (4件), 明るい (3件), いろ いろイメージがわく, 神秘的, 穏やか, 落ち着く, 静か, ほか
5 位	V カード (27人/9.2%) 面白くない・シンプルすぎる・イメージがふくらまない・ 地味 (9件), 寂しい (3件), 暗い・黒い (2件), ほか	III カード (23人/8.7%) 仲が良い・楽しい (4件), かわいい (3件), 調和・ まとまり (3件), わかりやすい, 明確, すっきりし ている, ほか
6 位	III カード (21人/7.2%) 赤が不快・嫌い (3件), 気持ち悪い (5件), 虫が嫌い (3件), 怖い (2件), ほか	II カード (19人/7.2%) 仲が良い・楽しい (4件), かわいい (3件), 調和・ まとまりがある (3件), わかりやすい (2件), ほか
7 位	X カード (21人/7.2%) 落ち着かない・ごちゃごちゃ・まとまりない (12件), 怖 い (4件), 汚い (2件), 移り気な, 気持ち悪い, ほか	IV カード (14人/5.3%) 父的・男性的 (4件), 堂々とした・凛とした (3件), 大きい, 安定した, ほか
8 位	VI カード (18人/6.1%) わかりにくい・イメージがわからない (4件), おもしろくない (2件), 形が嫌い (2件), 気持ち悪い (2件), ほか	I カード (10人/3.8%) 力強い (2件), 内容が好き (2件), ほか
9 位	VII カード (14人/4.8%) わかりにくい・はっきりしない (6件), 怖い (3件), まと まりがない, ぼやけた, 印象がうすい, ほか	VI カード (10人/3.8%) 花を連想, 見やすい, 親しみがもてる, ほか
10 位	VIII カード (6人/2.0%) イメージがつかめない, 色が嫌い, ほか	V カード (4人/1.5%) 形が明確, シンプル, ほか

表5. カードごとの各反応の平均, SDおよび出現率 (I~Vカード)

Card Variables	I			II			III			IV			V		
	Mean	SD	%	Mean	SD	%	Mean	SD	%	Mean	SD	%	Mean	SD	%
R	2.56	1.47		2.27	1.42		2.56	1.42		2.21	1.41		2.14	1.25	
Rej/Fail	—	—	—	—	—	0.69	—	—	0.46	—	—	0.69	—	—	0.46
W	1.86	1.16	94.5	0.92	0.87	67	0.31	0.59	25	1.38	1.02	85.6	1.65	0.91	97.7
Wc	0.09	0.32	8.03	0.3	0.57	25.9	0.5	0.78	35.8	0.18	0.47	14.9	0.14	0.45	10.3
W (total)	1.95	1.22	95.6	1.22	0.94	81.9	0.81	0.95	53.9	1.56	1.06	92	1.78	1	98.4
D (total)	0.34	0.65	25	0.72	0.93	47.5	1.45	1.31	73.2	0.44	0.79	30.1	0.26	0.6	19.5
Dd (total)	0.26	0.64	18.6	0.15	0.42	13.3	0.27	0.54	23.2	0.19	0.49	15.6	0.08	0.32	7.11
S (incl. add.)	0.41	0.46	57.8	0.38	0.54	41.5	0.11	0.29	16.3	0.06	0.24	7.57	0.02	0.16	2.75
F	1.53	1.28	80.1	0.76	0.91	51.2	1.07	1.09	64.5	0.95	1.06	59.2	1.06	1.06	65.4
M	0.4	0.68	33.5	0.64	0.7	53.2	0.96	0.69	77.8	0.25	0.53	21.8	0.21	0.48	18.6
FM	0.37	0.61	32.3	0.29	0.52	26.8	0.2	0.46	18.4	0.29	0.57	24.1	0.64	0.76	49.1
m (Fm+mF+m)	0.03	0.15	4.59	0.14	0.33	18.4	0.12	0.28	17.2	0.1	0.3	13.1	0.04	0.23	3.67
FK	0.03	0.18	3.21	0.11	0.3	12.8	0.01	0.09	2.29	0.32	0.48	36.2	0.02	0.14	2.75
KF+K	0.01	0.06	1.38	0.02	0.1	3.21	0	0.05	0.92	0.05	0.21	5.96	0.01	0.07	1.38
K (total)	0.04	0.19	4.59	0.12	0.31	15.6	0.02	0.11	3.21	0.37	0.54	39.2	0.03	0.15	4.13
Fc	0.04	0.21	4.82	0.07	0.27	8.26	0.03	0.16	3.9	0.33	0.55	34.2	0.04	0.19	5.28
cF+c	0.01	0.08	1.83	0.03	0.15	5.05	0.01	0.05	1.15	0.06	0.23	7.57	0	0.04	0.69
c (total)	0.05	0.23	6.42	0.1	0.31	12.8	0.04	0.17	5.05	0.39	0.62	38.8	0.05	0.21	5.5
FC'	0.29	0.52	28.2	0.14	0.34	16.7	0.11	0.3	14.2	0.16	0.36	18.6	0.21	0.46	21.8
C'F	0.01	0.06	0.92	0.01	0.09	2.29	0.01	0.1	1.61	0.01	0.1	1.61	0	0.05	0.23
C'	0	0	0	0	0.02	0.23	0	0.03	0.46	0	0	0	0	0.02	0.23
C' (total)	0.29	0.52	28.9	0.15	0.35	19	0.12	0.32	16.1	0.17	0.37	20.2	0.22	0.46	22.3
FC (incl. F/C)	—	—	—	0.23	0.47	22.7	0.18	0.38	20.6	—	—	—	—	—	—
CF (incl. C/F)	—	—	—	0.2	0.41	25.5	0.14	0.3	20.6	—	—	—	—	—	—
C	—	—	—	0	0.03	0.46	0	0.03	0.46	—	—	—	—	—	—
Csym	—	—	—	0.02	0.11	2.75	0.01	0.07	1.83	—	—	—	—	—	—
CF+C	—	—	—	0.22	0.43	27.8	0.15	0.31	22.9	—	—	—	—	—	—
Cp (total)	0	0.02	0.23	0	0.02	0.23	0	0	0	0	0.07	0.46	0	0.06	0.69
H	0.2	0.46	17.4	0.47	0.6	41.7	0.79	0.57	71.8	0.12	0.32	11.7	0.19	0.43	17.2
(H)	0.21	0.43	20.4	0.06	0.24	5.28	0.1	0.34	9.63	0.22	0.43	21.3	0.08	0.3	7.57
Hd	0.07	0.3	5.96	0.17	0.44	14.9	0.19	0.41	18.6	0.08	0.34	6.88	0.06	0.28	5.28
(Hd)	0.3	0.52	26.8	0.07	0.26	6.42	0.06	0.25	6.42	0.03	0.17	2.98	0.01	0.1	0.92
A	1	0.88	71.1	0.66	0.8	49.3	0.34	0.63	27.1	0.36	0.66	28.4	1.28	0.81	86.2
(A)	0.06	0.23	5.96	0.08	0.3	6.65	0.06	0.23	5.73	0.31	0.52	28.9	0.11	0.36	9.4
Ad	0.35	0.64	28.4	0.14	0.37	13.5	0.51	0.63	43.8	0.3	0.57	25.5	0.19	0.48	15.6
(Ad)	0.09	0.29	8.94	0.02	0.13	1.61	0.05	0.23	4.36	0.12	0.34	11.7	0.02	0.13	1.83
At (total)	0.06	0.24	5.28	0.15	0.42	13.3	0.11	0.35	11.1	0.03	0.2	2.29	0.01	0.1	0.69
Sex	0	0.05	0.23	0.01	0.09	1.15	0	0.02	0.23	0	0.05	0.46	0	0	0
Anal	0	0	0	0.01	0.08	0.92	0	0	0	0	0	0	0	0	0
Aobj	0	0.05	0.23	0	0	0	0	0	0	0.14	0.34	14	0	0.05	0.46
Plf	0	0.07	0.46	0.04	0.22	4.13	0	0.07	0.46	0.04	0.19	3.9	0.01	0.1	0.92
Pl	0.06	0.26	6.42	0.01	0.1	1.15	0.01	0.1	1.61	0.2	0.41	21.6	0.02	0.15	2.75
Na	0	0.03	0.46	0.05	0.24	5.73	0.01	0.13	1.83	0.06	0.24	7.11	0.02	0.14	2.06
Obj	0.06	0.27	6.19	0.09	0.31	8.03	0.22	0.36	32.8	0.07	0.25	8.72	0.08	0.28	8.26
Arch	0.06	0.26	5.28	0.11	0.32	12.8	0	0.05	0.46	0.04	0.2	4.36	0.01	0.13	1.15
Map	0.01	0.1	0.92	0.02	0.14	1.61	0.01	0.1	0.92	0	0.07	0.46	0.01	0.08	0.69
Lds	0.01	0.08	0.69	0.07	0.25	7.57	0	0.06	0.69	0.01	0.12	1.61	0.01	0.08	0.69
Art	0	0	0	0.01	0.08	0.92	0.01	0.09	1.15	0	0.07	0.46	0	0	0
Abst	0.01	0.08	1.61	0.03	0.15	3.21	0.03	0.13	5.5	0.01	0.12	1.61	0	0.05	0.23
Bl	0	0	0	0.09	0.26	13.1	0.02	0.11	2.52	0	0	0	0	0.02	0.23
Cl	0	0.02	0.23	0	0.05	0.92	0.01	0.09	0.92	0.03	0.17	2.75	0.01	0.08	0.69
Fire	0	0.02	0.23	0.04	0.19	6.42	0.14	0.3	20	0.01	0.09	2.29	0	0.05	0.23
Expl	0	0	0	0.01	0.09	1.83	0	0	0	0	0.03	0.46	0	0	0
Food	0.01	0.1	0.92	0.02	0.16	1.61	0.01	0.08	0.92	0.01	0.13	0.92	0.03	0.18	3.44
Music	0	0.03	0.46	0	0	0	0.04	0.18	5.96	0	0.05	0.23	0	0	0
P	0.61	0.66	51.4	0.72	0.67	61.2	0.77	0.52	72.7	0.13	0.35	13.1	0.96	0.64	78

表5 (つづき)。カードごとの各反応の平均、SDおよび出現率 (VI~Xカード)

Variables	Card VI			VII			VIII			IX			X		
	Mean	SD	%	Mean	SD	%	Mean	SD	%	Mean	SD	%	Mean	SD	%
R	2.49	1.69		2.34	1.53		2.65	2.65		2.53	1.74		3.5	2.77	
Rej/Fail	—	—	1.15	—	—	0.23	—	—	0.69	1	0	2.06	—	—	0.46
W	1.42	1.09	82.6	1.12	0.97	72.9	0.94	1.07	58.7	0.87	0.93	59.9	0.86	1	58.7
Wc	0.33	0.6	27.1	0.02	0.13	1.83	0.12	0.37	10.3	0.08	0.32	6.65	0.03	0.16	2.75
W (total)	1.75	1.22	91.7	1.13	0.97	73.9	1.06	1.12	65.4	0.94	0.99	62.6	0.89	1.01	60.6
D (total)	0.42	0.76	30.5	0.94	1.09	57.1	1.19	1.39	63.3	0.97	1.18	53	2.25	2.5	68.1
Dd (total)	0.31	0.66	22.3	0.1	0.41	7.34	0.35	0.9	23.9	0.6	0.98	39	0.34	0.7	25.7
S (incl. add.)	0.01	0.12	1.83	0.22	0.5	20	0.1	0.3	12.8	0.15	0.34	20.4	0.16	0.35	20.4
F	1.52	1.31	77.1	1.04	1.21	59.6	0.96	1.19	56	0.87	1.04	55.1	1.24	1.51	61.5
M	0.11	0.34	11	0.79	0.74	65.1	0.22	0.54	17.7	0.3	0.62	24.5	0.58	0.82	43.6
FM	0.14	0.4	13.5	0.19	0.44	17.9	0.61	0.64	55.1	0.21	0.45	19.7	0.47	0.76	38.1
m (Fm+mF+m)	0.17	0.43	16.5	0.07	0.25	9.63	0.08	0.3	8.72	0.25	0.41	32.8	0.15	0.34	20
FK	0.13	0.38	11.9	0.07	0.25	8.72	0.12	0.4	16.1	0.07	0.23	10.3	0.06	0.28	7.57
KF+K	0.02	0.13	3.44	0.05	0.19	6.65	0.01	0.07	1.38	0.06	0.19	11	0.01	0.08	1.15
K (total)	0.15	0.43	13.3	0.12	0.33	14	0.13	0.41	17.4	0.13	0.3	19.7	0.07	0.3	8.49
Fc	0.39	0.67	31.9	0.17	0.45	15.6	0.08	0.28	8.72	0.06	0.22	6.88	0.04	0.17	5.28
cF+c	0.06	0.25	6.88	0.05	0.21	5.73	0.02	0.11	2.52	0.03	0.16	3.67	0.01	0.07	1.83
c (total)	0.45	0.77	35.3	0.22	0.51	20	0.1	0.3	11.2	0.08	0.28	10.3	0.05	0.18	6.88
FC'	0.06	0.23	5.73	0.04	0.19	4.82	0.01	0.11	1.83	0.01	0.11	1.83	0.08	0.29	8.03
CF	0.01	0.06	0.92	0.02	0.13	2.98	0	0.03	0.46	0	0.02	0.23	0	0.03	0.46
C'	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C' (total)	0.06	0.24	6.42	0.06	0.23	7.34	0.02	0.12	2.29	0.02	0.12	2.06	0.08	0.29	8.49
FC (incl. F/C)	—	—	—	—	—	—	0.49	0.7	42.2	0.61	0.82	46.8	0.78	0.95	56.9
CF (incl. C/F)	—	—	—	—	—	—	0.31	0.65	27.8	0.45	0.65	40.6	0.44	0.73	37.2
C	—	—	—	—	—	—	0	0.05	0.23	0	0.06	0.69	0	0.05	0.23
Csym	—	—	—	—	—	—	0.05	0.18	7.34	0.03	0.16	5.05	0.12	0.34	13.3
CF+C	—	—	—	—	—	—	0.38	0.71	33.9	0.5	0.67	44.7	0.57	0.85	45.6
Cp (total)	0.02	0.19	2.29	0.01	0.08	1.38	0	0.07	0.46	0	0.05	0.46	0	0	0
H	0.08	0.27	7.57	0.49	0.69	39.5	0.07	0.27	6.88	0.18	0.44	16.1	0.26	0.52	23.2
(H)	0.06	0.26	5.73	0.13	0.36	12.4	0.04	0.23	3.21	0.07	0.27	6.42	0.27	0.59	21.8
Hd	0.04	0.2	4.59	0.39	0.57	35.3	0.19	0.49	15.1	0.23	0.58	18.6	0.41	0.66	32.8
(Hd)	0.11	0.32	10.3	0.16	0.43	13.5	0.1	0.32	8.94	0.16	0.44	14	0.1	0.31	9.4
A	0.36	0.64	29.4	0.35	0.62	28.2	1.08	0.8	82.3	0.32	0.6	26.6	1.09	1.27	64.2
(A)	0.05	0.22	5.5	0.06	0.26	5.5	0.09	0.28	9.86	0.06	0.23	5.96	0.3	0.59	27.3
Ad	0.21	0.49	18.6	0.21	0.46	18.4	0.16	0.45	13.5	0.3	0.6	23.6	0.13	0.39	11.9
(Ad)	0.01	0.12	1.38	0.05	0.22	5.05	0.04	0.21	3.9	0.08	0.3	7.8	0.03	0.18	3.21
At (total)	0.01	0.07	0.69	0.01	0.15	11.5	0.13	0.36	12.4	0.07	0.3	6.19	0.07	0.27	6.19
Sex	0.02	0.18	1.61	0	0.07	0.46	0	0	0	0.01	0.1	0.92	0	0.07	0.46
Anal	0.01	0.08	0.69	0.01	0.09	0.92	0	0.05	0.23	0	0	0	0	0.05	0.23
Aobj	0.27	0.45	27.3	0	0	0	0	0.05	0.23	0	0.05	0.23	0.01	0.07	0.69
Plf	0.08	0.28	8.03	0	0.07	0.46	0.22	0.43	21.8	0.15	0.37	14	0.18	0.41	17.9
Pl	0.13	0.36	13.3	0.05	0.26	5.05	0.13	0.35	17.4	0.16	0.42	16.1	0.21	0.42	25.2
Na	0.05	0.21	6.88	0.06	0.24	7.8	0.24	0.43	33.9	0.14	0.34	16.7	0.12	0.29	15.1
Obj	0.25	0.57	21.8	0.16	0.42	16.1	0.13	0.39	13.1	0.25	0.51	25.2	0.18	0.41	19.7
Arch	0.17	0.44	14.9	0.05	0.22	5.96	0.08	0.41	6.88	0.07	0.23	8.26	0.1	0.32	11.9
Map	0	0	0	0.02	0.13	1.83	0	0.07	0.46	0.03	0.19	2.98	0.01	0.12	1.38
Lds	0.03	0.19	2.98	0.04	0.19	3.67	0.07	0.29	7.11	0.05	0.22	4.82	0.04	0.21	4.13
Art	0.01	0.11	0.46	0.01	0.08	1.83	0.02	0.13	2.06	0.01	0.11	1.83	0.05	0.24	5.05
Abst	0	0.03	0.46	0	0	0	0.03	0.18	3.67	0.05	0.24	5.96	0.11	0.35	11.2
Bl	0	0.02	0.23	0	0	0	0	0.05	0.46	0	0.05	0.92	0.01	0.09	1.61
Cl	0.01	0.08	1.83	0.04	0.19	4.36	0.01	0.08	0.69	0.05	0.18	6.65	0.01	0.1	1.83
Fire	0	0.06	0.69	0.01	0.08	0.69	0.01	0.11	1.61	0.22	0.44	22.7	0.1	0.32	9.86
Expl	0.01	0.1	1.61	0	0.02	0.23	0	0.04	0.69	0.03	0.15	5.05	0.03	0.15	5.5
Food	0.1	0.31	9.4	0.08	0.29	7.34	0.04	0.22	4.36	0.1	0.33	10.1	0.05	0.23	4.59
Music	0.44	0.52	42.7	0	0.05	0.23	0	0	0	0.03	0.15	3.44	0	0.06	0.69
P	0.25	0.43	25.2	0.65	0.67	56	0.92	0.54	81.4	—	—	—	—	—	—

各カードの反応傾向の分析

I カード

カードに対するイメージ・全体的な反応傾向

受検者がはじめて目にするインクプロットは、どちらかと言えば否定的な印象を持たれやすい。嫌いなカードとして選ばれる頻度は上から3番目、好きなカードとして選ばれる頻度は下から3番目である。これは、インクプロット全体が比較的暗い色調を帯びているとともに、その形態がある種の怖い「顔」を連想させやすいことが影響しているのかもしれない。事実、「暗い」「怖い」「不吉」「不気味」「悪魔的」「悪い」といった言葉で形容されることも多い。しかし、一方で、I カードを好きなカードとして選んでいる人は、このカードの持つ雰囲気や「力強い」と見なすこともある。

初発反応時間(R1T)は、全10カードのうち、もっとも短い。最初に見るカードに、受検者の側に気負いもあるのか、Rej (反応拒否)、Fail (反応失敗) はほとんどない(少なくとも本研究の健常者データでは確認されない)。したがって、もしこのカードで「失敗」や「拒否」などが生じた場合、相当に強い不安や緊張が存在するか、あるいはテストそのものに対する拒否的な態度の現れと見なすこともできる。

領域

W (全体) の出現率はV カード (98.4) について2位 (95.6) である。また、副分類を加えるとS (空白) 反応の頻度が相当に高い (57.8%)。これは、S領域を「目」や「口」と見なした顔反応が数多く出現するためである。一方、普通部分反応 (D) の出現頻度はかなり低い。D (普通部分) の出現頻度の低さは、全10枚のカード中、下から

2番目である (もっとも低いのはVカード)。これは、I カードのインクプロット全体が1つのまとまった形として知覚されやすいことによると考えられる。

決定因

I カードにおいては、F (純粹形態) の出現頻度がかなり高い。健常者432人中、実に96%にもおよぶ人が形のみに基づいてインクプロットを意味づけている。インクのシミが何に見えるかを問われた際、まずはその形を見て、それが何に似ているかを判断するのはごく当たり前の対処法といえよう。最初のカードにおいては、圧倒的多数の人がこのような言わばごく普通のやり方で課題に臨んでいることが見て取れる。

C (黒白) の出現頻度は全10枚中でもっとも高い (28.9)。明確な黒色を帯びたVカードよりも、このIカードの方でC が多く出現していることは注目すべき現象である。カードに対する印象を参照すると、I カードで「暗い」ことや「黒い」ことを指摘する人は多数いるが、Vカードに「暗い」や「黒い」という印象を持つ人は思ったよりも少ない。Vカードのように、ほぼ色ムラのないはっきりとした黒色よりも、Iカードのようなややまだら状の黒の方が、暗さがより引き立つのかもしれない。

その他、M (人間運動) 反応が比較的高頻度で出現している (33.5%)。人間のP (平凡) 反応が存在しないカードでは、Xカードに次いで多い。このこともIカードにおける決定因の特徴として指摘しておきたい。

内容

頻出の内容として、カード全体への「コウモリ」(A)、「チョウ」「ガ」(A) がまず挙げられる。次いで、カードの色付き領域全体に加えて空白領域も使用したキツネ、ネコ、イヌ等の動物の「顔」「ハロウィンのカボチャ」「お面」(Ad, [Hd]) など顔反応が続く。さらに、D1 (中央部分) に対して「人間」(H) を見たり、D1を中心に左右に「羽」を加え、最終的にWで「天使」などの非現実的人間像 ([H]) が知覚されたりすることも多い。

Ⅱカード

カードに対するイメージ・全体的な反応傾向

全10枚のうち、もっとも嫌われやすいカードである。赤色と黒色との強烈なコントラストに衝撃をうけるためか、「怖い」「強烈」という評価を与える人が相当数見受けられる。わけても赤色刺激に「血」が連想され、「不快」「気持ち悪い」という印象を持つ人が少なからず存在する。

平均反応数は2.3個であり、Vカードに次いで2番目に反応数が少ない。それでも、このカードへの反応を拒否したり失敗したりする人の数は、予想されたほど多くはない (健常者432人中わずか3人が該当、出現率は0.69%である)。あるいは、2枚目のカードの段階では、当初の緊張感や気負いなどが適度に持続しているせいか、拒否や失敗は生じにくいのかかもしれない。

一般的には、このカードの印象はどちらかと言えば否定的なものへと傾きやすいものの、数は少ないが、赤と黒の強烈なコントラストを「調和している」「まとまりがある」「良い」と肯定的に捉える人もいる。また、自らの与えた反応内容 (特に人間像間あるいは動物像間の相互作用のあり

方) に関連づけ、「楽しい」「仲が良い」といった肯定的な印象がもたらされる場合もある。

領域

Wの出現頻度がやや減り、Dの出現頻度が上昇する。これは黒色のD1が比較的わかりやすい形態を有しており、多くの人がここに四足獣 (クマ、ゾウなど) を見るからである。

また、Sが多く出現する。Sの出現率の順位に着目すると、Ⅱカードの頻度はⅠカードに次いで2位である。しかし、ⅠカードのSがあくまでもWの副分類として出現したのに対し、Ⅱカード中央のS領域は主分類として出現しやすい (例えば、「飛行機」「ロケット」「コマ」「照明器具」など)。

決定因

運動反応に関しては、50%を少し上回る頻度でMを認める。FM (動物運動) の頻度は27%程度である。一方、色彩反応に着目すると、カード中央下部に激しく飛散したような形態を有する赤色刺激 (D2) が存在するせいか、形態のはっきりしたFC (形態彩色) 反応は少なく、形態のはっきりとしないCFやCの数が上回っていることが確認できる。CF (彩色形態) とC (純粋彩色) が優位となる傾向は他の色彩カードに比べて顕著である。

内容

Ⅱカードの中では、「人間2人」(P) という内容がもっとも多く出現する。次いでD1領域に対する「ゾウ」「クマ」などの動物像 (A)、さらに2つのD1領域を利用した「肺」や、D1領域を結合させる形での「骨盤」(At) などである。

また、上でも取り上げたD2 (カード中央下部

の赤色領域)は、性 (Sex) 反応, 肛門 (Anal) 反応, 血液 (Bl) 反応を誘発しやすい。健常者グループにおける、Ⅱカードの性反応 (主に女性性器) の頻度は1%強 (全カード中2位), 「肛門」の頻度は1%弱 (全カード中1位), 「血液」の頻度は13% (全カード中1位) である。したがって、仮にこれらの反応が1個程度出現したからと言って、即座に問題にすることは控えねばならない。

Ⅲカード

カードに対するイメージ・全体的な反応傾向

Ⅲカードは比較的明確な形態を有するため、「わかりやすい」「スッキリしている」「明確な」といった評価が散見される。また、このカードに高頻度で出現する人間像 (あるいは人間像の動き) に触発されるかたちで、肯定的な印象がもたらされることもある。例えば「動きがあってよい」「楽しそう」「仲がよい」といったものである。しかし、その一方で、赤色刺激に対する不快感 (「赤が不快」) や、昆虫など自らが連想した内容に対する嫌悪感 (「気持ち悪い」「怖い」) が表明される場合もある。全体的な傾向として、Ⅲカードが「嫌い」に選ばれる頻度は6位, 「好き」に選ばれる頻度は5位である。これを見る限り、Ⅲカードは好悪の選択に関しては際立った特徴を示していないと言えよう。

領域

このカードの特異性は、純粋なWがきわめて少ないという点にある (約25%)。おそらくそれは、黒色領域と赤色領域が明確に分かれており、両者を有機的に統合させることが困難であることに由来する。しかし、Wが少ない代わりに、Wc (切断全体反応) はかなり多い。つまり、赤領域だけ

を除外することを言明する人が多いということである。また、赤領域を除くことに言及せず、黒い領域全域に「人間」+「モノ」を見る人も相当の頻度で存在する。この場合は結果的にDという形でスコア化されることに留意せねばならない。

決定因

全10枚のうちM反応の出現頻度がもっとも高い (77.8%)。これは高頻度で出現する人間のP反応が存在するためである。一方、FK (立体通景) やKF, K (拡散), あるいはc (材質) 等、陰影の関与した反応が与えられることはきわめて稀である。

内容

全カード中、人間の全身像 (H) がもっとも多く出現する。人間のP反応に付随して、D5領域に「テーブル」「カバン」「鍋」などのObjが見られることも多い。この人間反応に次いで多いのが、D3 (中央赤領域) に対する「リボン」「蝶ネクタイ」 (Obj), D1 (左右の赤領域) に対する「人魂 (ひとだま)」「火の玉」 (Fire) などである。

その他、比較的よく出現する内容としては、D5領域に対する「昆虫の頭」等、動物の部分像 (Ad) が挙げられる。

Ⅳカード

カードに対するイメージ・全体的な反応傾向

Ⅱカードに次いで嫌いなカードに選ばれやすい。このカード全体を覆う暗く重い陰影は、文字通り「暗い」や「重い」、あるいは「暗黒」「怖い」といった否定的な印象に結び付きやすい。また「圧迫される」「威圧的」「押しつぶされそう」などの評価も散見される。しかし、この要素を必ずしも

否定的には捉えず、「大きい」「安定している」「父親的」「凛としている」と見なす人もいる。

反応数は全カードの中で2番目に少ない。暗く重い印象を持たれやすいことに加え、カード全体が1つのまとまったゲシュタルトを構成しているせいか、多様な連想がわきにくいのかかもしれない。実際、複数の受検者が「よくわからない」「想像がわきにくい」といった感想を漏らしている。

領域

W反応は90%以上の人に認められる。全体が1つのまとまった形態をなしているせいか、DやDdなどの部分反応の出現頻度は他のカードに比べてやや少ないのが特徴である。

決定因

このカードを際立たせているのは、他のカードに比べて陰影反応（Shading）が圧倒的に多い点である。形態と陰影の印象から遠近感が引き起こされ、FKを生じさせることもあれば、同じく形態と陰影から毛皮のような材質感が喚起され、Fcを生起させることも多い。むしろ、これらの反応は他の陰影カード（VI, VII）にも生じうるが、IVカードの方がその頻度は上回っている。また、重く暗い陰影に触発されて、C'（黒白）が出現しやすいことも指摘しておく。

内容

インクプロット全体を利用して、怪獣（〔A〕）、樹木（PI）、巨人・大男（〔H〕）、クマ（A）等、比較的な大きなものを連想させる対象が知覚しやすい。動物の毛皮（Aobj）は、これらに継ぐ頻度である。また、D1領域に「竜の頭」（〔Ad〕）等、非現実な動物の頭部が見られることも多い。

Vカード

カードに対するイメージ・全体的な反応傾向

全10枚のカードの中では、もっとも単純な構図であり、なおかつもっとも分かりやすい形態を有するカードである。このカードが「嫌い」に選ばれる頻度は5位、「好き」に選ばれる頻度は10位に位置する。この結果を見る限り、特に好まれはしないが、嫌われにくいカードといった位置づけである。ごく単純な構図であるせいか、「地味」「さみしい」「発想がふくらまない」「シンプルすぎる」など、まさに「おもしろみに欠ける」ことに関連した感想が目立つ。

このように、ごく単純な構図にイメージが限定されるせいか、反応数は全カードでもっとも少ない。それに伴い、反応終了時間ももっとも短い。

なお、Vカードに対して圧倒的多数の人は、「コウモリ」や「チョウ」「ガ」などのP反応を難なく与えることができる。したがって、このカードで反応拒否や失敗が生じることはまれである。しかし、この当たり前すぎる答えを与えることに躊躇したのか、結果として反応失敗に至るケースも皆無ではない。

領域

Vカードの反応領域を特徴づけているのは、Wの出現頻度が他を圧倒していることである。Wに属する反応の出現頻度は実に98.4%にも及ぶ。これと相応するかのよう、部分反応は普通のもの、特殊なものを含めて出現頻度は低い。このVカードは全体を部分に分解しにくい形態を特に有している。このことが、部分反応を減じさせた要因と言えそうである。

決定因

Vカードの中でもっとも出現する決定因は、他のカードと同じくFである。しかし、その頻度は他のカードのそれと比較すると意外に少なく、65%程度に留まっている。これに対し、出現率49%のFMは、他のカードに比べると多い。Vカードの形態は「チョウ」「ガ」「コウモリ」などの生き物があたたかも羽を広げているかのように見える。このことが「飛ぶ」「はばたく」といった運動反応につながりやすい。

なお、このVカードは全体的に色むらが少なく、ほぼ均一な黒色をなしている。また全10枚のカードのうち、インクプロットの面積がもっとも小さい。こういったことが影響したのか、Iカードのように大きな面積をもつまだら状の黒色刺激に比し、Vカードの「黒さ」や「暗さ」は受検者に際立った印象を与えなかったようである。実際、C（黒白）の出現頻度はIカードよりも少ないし、c（陰影）、K（拡散）などに至ってはほとんどない。したがって、もし、このVカードで陰影反応が出現したとするならば、それは相当に特異な現象であることを指摘しておかねばならない。

内容

インクプロット全体に対する「チョウ」「ガ」、同じく全体への「コウモリ」（いずれもA）の頻度がきわめて高い。ついで、Wへの「人間+衣装」、D1への「人間」、D2への「人間」（いずれもH）などの反応が続く。Vカードは単調な構図が影響し、他のカードに比べると反応内容のヴァリエティは乏しいのが特徴である。

VIカード

カードに対するイメージ・全体的な反応傾向

無彩色カードの中では、もっとも反応が遅延しやすい。またRejやFailはIXカードに次いで多い。VIカードは、全体で1つのまとまりをなしているが、この形態によりよく合致したイメージを見出しにくいことが反応失敗につながりやすいと推測される。事実、「イメージがわからない」「よくわからない」「形がはっきりしない」といった感想は数多く見受けられる。

VIカードは、嫌われる順位としては第8位、好まれる順位としては第9位に位置する。すなわち、好まれも嫌われもしないカードといえよう。

領域

このカードにおいても90%以上の頻度でWが出現する。それでも各D領域やDd領域（例えば、図版中央の濃い色目の部分）に反応が与えられることは決して稀ではない。全体で1つのまとまりを持ったプロットであるものの、部分反応が比較的豊富に出現する点がこのカードの特徴である。

決定因

VIカードに多く認められる決定因はFとc（材質反応）である。このカードの持つ陰影や形から毛皮などの材質感が喚起されやすいためである。また、このカードではMやFMなどの運動反応はかなり制限されている。VIカードの形態からは、どちらかと言えば静止した像が知覚されやすく、動きを感じる人は少数派に属する。

内容

Wに対する「弦楽器」(Music)の出現頻度がもっとも高く、次にWの毛皮(Aobj)が続く。D3に

船 (Arch), あるいは同じく D3 に「天狗の面」 ([Hd]) が見られることも多い。この他には, W に対する「葉っぱ」という反応もかなりの頻度で出現している。

なお, D4 に「男性の性器」が知覚されることもある (1.6%)。頻度としては決して高くはないが, この VI カードは II カードとともに性反応 (Sex) を誘発しやすい刺激属性を有していることを認識しておく必要がある。

Ⅶカード

カードに対するイメージ・全体的な反応傾向

全体的にやわらかい陰影と, カード上部に女性や子どもといった, やさしくかわいらしいイメージが知覚されやすいためか, 好きなカードとして選ばれることが多く (3 位), 嫌いなカードに選ばれることは少ない (9 位)。このカードに対する印象を見てみると, 「明るい」「あたたかい」「やわらかい」「楽しい」「かわいい」といった肯定的なものが相当数を占める。しかし, このようにやわらかな陰影刺激を「はっきりしない」「ぼやけている」と否定的に捉える人もいる。

反応拒否や失敗はほとんど認められず, Rej や Fail が生起する頻度は全カード中下から 2 番目 (本研究では 432 人中 1 人のみが Fail を示す。出現率は 0.24%) である。

領域

Ⅶカードは複数の D 領域が結合したかたちで成立している。それゆえ, 各 D 領域に明確に区分できる。全体をまとめようとするときそれなりに苦労するが, 区分された D 領域ごとに何かを見出そうと努めるならば比較的容易に対処できる。Ⅶカードには, このような性質があるため, W が少なく,

D が増える傾向にある。また, 各領域が明確に区分されているせいか, Dd (特殊部分反応) も少ないのが特徴的である。

Ⅶカードにおいては, S (空白) 反応は意外なほど少ない。確かにそのプロットは中央の空白部分を取り巻くような形状に見えるものの, II カードのように S 領域を完全に取り囲んでいるわけではない。それが, この結果につながったと推測される。

決定因

Ⅶカードは, ダイナミックな運動を伴いがちな人間像が P 反応として存在する。したがって, 必然的に M (人間運動) 反応が多く出現する。その分, 純粋 F の頻度は少なくなっている。

また, 陰影刺激から引き起こされる c (材質: 20%) や KF, K (拡散: 6.7%) も適度に認められる。

内容

W (正位置) に対する「人間 2 人」(H) がもっとも多く, ついで D1 への「人間の顔」(Hd) が続く。しかしながら, これら 2 つの反応間に頻度の差はほとんどない。つまり, 同じ領域を「顔」に見立てた H と Hd とが, ほぼ同じくらいの頻度で出現するという意味である。さらにこれに加え, D4 に対する「人間の顔」(Hd) も相当の頻度で認められる。

この他には, D2 に対する「動物」(わけでも「ウサギ」) がかなりの頻度で出現する。なお, 逆位置から見た「人間 2 人」(H) という反応は, 正位置の「人間 2 人」に比べるとはるかに少ないが, それでも決して稀というわけではない。

Ⅷカード

カードに対するイメージ・全体的な反応傾向

初めて目にする多彩色カードは受検者に何らかの衝撃を与えることが推測される。多彩色という要素が入り込むことによって、これまでのパターンとは異なる認知が求められるからである。しかし、比較的分かりやすい形態を持つカードであるせいか、初発反応時間の遅延は認められない。むしろ、反応終了時間が長くなることが特徴的といえる。

Ⅷカードは全カードの中での嫌いな順位はもっとも低く、好きな順位としては第2位に入っている。つまり、好まれやすく、嫌われにくいカードである。このカードを彩る鮮やかな色彩が、受検者の目には「綺麗」「鮮やか」「明るい」と映るのに加え、インクプロット全体が1つの輪のように見えることから、「まとまっている」「調和している」といったイメージも生じる。こういったことが肯定的な印象につながっているのであろう。

領域

このⅧカードには、複数の独立したD領域が存在するため、カード全体をひとまとめにして反応を与えることが困難となる。事実、Wの出現頻度は減り（65.4%）、Dの頻度が上昇する（63.3%）。こういったカードの特徴が影響し、それまでW反応にこだわってきた受検者も、このカードに至ってはごく自然にD反応を与えるようになる。したがって、このカードでもまだW反応しか与えられない場合は、受検者の何らかの特性（例えば、こだわり、完全癖、強迫、思考・行動の堅さなど）に起因すると見なしてよいであろう。

この他の特徴として、複数のD領域を結合させ、1つの対象物を知覚したDd反応（例えばD2+D1

の「花」）なども、それなりの頻度で出現する（22.3%）ことを指摘しておきたい。

決定因

Ⅷカードは多彩色であるため、色彩反応が相対的に増加するのは言うまでもない。それでもⅨやXカードに比べると、色彩反応の出現頻度は控えめな方である。D1（左右のピンク色の領域）に代表されるように、各D領域はかなり明確な形態を持つが、明確であるがゆえに、その形態と色彩とを結び付けることに困難さが伴うからかもしれない。

その他の特徴として、FM（動物運動）が多いことが指摘できる。後述するが、Ⅷカードには多くの人が難なく与える動物のP反応が存在する。これらの動物が木や岩を「登」ったり、岩場を「渡り歩」いたりするといった反応が相当の頻度で出現しているためである。

さらに、Ⅷカードに多く認められる決定因にFK（立体通景）もある。それは第一に、カードを横向きにした鏡映反応（「岩場を歩く動物と水面に映る像」といった内容）が生じやすいこと、第二にD3領域の形態や色合いから、遠くに見える「山」が連想されやすいことが、立体通景反応を増加させた要因と考えられる。

内容

Ⅷカードでの頻出内容は、D1領域における四足獣（トラ、クマ、ネコなど）である。またこの領域は、トカゲやカメレオンなどの爬虫類に見られることもある。四足獣と爬虫類を合わせて、出現頻度は81.4%におよぶ。D2やWに対する「花」（Plf）もかなりの頻度で出現する（21.8%）。また、質の良否はともかくとして、健常者のグループに

においてもカード全体を顔 (Hdもしくは [Hd]) に見立てた反応が7%程度出現していることを指摘しておきたい。

Ⅸカード

カードに対するイメージ・全体的な反応傾向

初発反応時間は全10枚のカードのうち、もっとも遅延する。インクプロットの形態が多義的であるのに加えて、色彩も加わっていることがこういう現象を引き起こしているようである。「曖昧」「わけがわからない」「表現しにくい」といった感想を述べる人が少なからずいることがこの推測を裏づけている。

反応を与えることの難しさが大いに影響し、Ⅸカードは反応拒否や失敗をもっとも引き起こしやすい。健常者のグループにおいても、RejやFailは約2%の頻度で生起する。

反応の難しさも手伝ってか、このカードは嫌いなカードの4位に位置するが、その一方で刺激の曖昧さを「神秘的」「いろいろなイメージが湧いてくる」と肯定的に評価する人もいる。また、Ⅸカードの穏やかな色調に、「おだやか」「静か」「落ち着く」といった印象を持ち、好きなカードとして選ぶ人も少なからずいる（事実、好きなカードとして選ばれる頻度は全体の4位である）。この結果を見る限り、Ⅸカードは好悪の分かれるカードと言ってよいであろう。

領域

このカードでは、ⅧカードよりもさらにW反応が減る (62.6%)。それと相応するかのように部分反応が増加する。わけでもⅨカードは、それぞれのD領域の境界が曖昧であるせいか、複数のD領域が結合したり、一部だけが切り取られたりし

たDd反応が全カード中、もっとも多く出現するのが特徴的である。また、このカードにかなりの頻度で認められる「顔」反応においては、空白領域が「目」に見られやすいこともあり、全体的にS反応が増加していることも指摘しておく。

決定因

Ⅸカードで注目すべきは、他に比べてm (非生物運動)が突出して多いことである。これは、カード上部のオレンジ色の領域 (D3) が、「火」や「噴火」など、炎の動きをごく自然に連想させやすいことによる。また、このD3に囲まれた中央の領域には、淡い色彩が認められ、あたかも霞み水しぶき、あるいは噴煙などを連想させる。これが、KFやKといった拡散反応が出現しやすい要因となっている。実際、拡散反応の出現頻度は、全カード中、Ⅸカードがもっとも多い。

色彩反応は豊かである。インクプロットの形態が多義的であるせいか、このカードでは、FC (一次形態の色彩反応) が46.8%、CF+C (二次形態もしくは無形態の色彩反応) が44.7%とほぼ同程度の頻度で出現する。

内容

このカードで目立つ内容はD3領域 (カード上部の2つのオレンジ色の領域) に対する「火」「炎」「噴火」である。結果として、Fireとスコア化された反応は全カード中もっとも多い (出現頻度22.7%)。また、「火」に関連して「聖火台」「ガス台」「アルコールランプ」などの物体 (Obj) も出現しやすい。あるいは、図版全体を「花瓶」 (Obj) のような物体に見立てる人も少なからずいる。

きわめて多義的なD3領域は、見ようによって

いろいろと内容が変化するように、「タツノオトシゴ」や「エビ」(A)に見られたりすることもあれば、「魔法使い」や「魔女」のような非現実的な人間像(H)に見立てられたりすることもある。いずれも決して少なくない頻度である。

この他に目立つ反応内容として、カード中央のd4領域を「目」や「鼻」に見立てた「顔」反応(主に「妖怪」や「怪物」などの非現実的な人間像)が比較的多く出現することも指摘しておきたい。

Xカード

カードに対するイメージ・全体的な反応傾向

比較的分かりやすい部分領域を有し、それぞれが豊かに彩色されたXカードは、一見してにぎやかで明るい印象を与える。実際、多くの受検者は、このカードに「楽しい」「奇麗」「カラフル」「明るい」「にぎやか」「華やか」といった感想をもらす。こういった印象は、おおむね肯定的な評価につながるようであり、好きなカードとして選択される頻度は全カード中もっとも高く、嫌いなものには選ばれる頻度も下から3番目と低い。しかしながら、それぞれに彩色された領域がカードのあちこちに散らばっていることから、「ごちゃごちゃしている」「まとまりがない」「落ち着かない」といった否定的な印象を持つ人もいる。

ところで、このように散漫な構図が影響するののか、最初の反応が与えられるまでにかなり長い時間を要する(約26秒)。他のカードと比べてみても、初発反応時間はもっとも遅延しやすい。これと運動するかのように、反応終了時間もいちばん長く(平均で約2分17秒)、いちばん短いVカードの2倍弱もかかっている。反応数に着目すると、他のカードから平均して1個程度は増加し、併せて3～4個となる。このように反応時間の増大と反応

数の増加がXカードの大きな特徴の1つと言えるであろう。なお、散漫でまじめにくい印象をもたらすものの、XカードでのRejやFailはほとんどない。

領域

Wの頻度はかなり落ち(60.6%)、代りにDの頻度が相当に上昇する(68.1%)。これはXカードの構図を見れば首肯できる結果である。また複数のD領域を結合させて1つの対象物を知覚したDd(特殊部分反応)の頻度も高い(25.7%)。これらの傾向はⅧカードと同様である。

決定因

色彩カード(Ⅱ, Ⅲ, Ⅷ, Ⅸ, X)の中でも、このXカードがもっとも多く色彩反応をもたらしている。その出現頻度は、FCが56.9%、CF+Cが45.6%である。その他の特徴として、運動反応が多いことも挙げられる。Ⅱ, Ⅲ, Ⅷカードのように人間のP反応は存在しないが、Mの出現頻度は43.6%と、これらのカードに迫る勢いである。これは1つには、カードのにぎやかさに触発され、昆虫や動物に擬人化された動き(例えば「祭」「宴会」など)を見る人が多いことによる。さらに、以下の内容の項でも触れるが、純粋な人間像を見出し、その運動に言及する人も少なからず存在する。これらがMの数を増やした要因である。また、m(非生物運動反応)の頻度も比較的高い(約20%)。このカードを逆位置にした際に、上方に向かって拡散していくような形状に「花火」を連想したり、(カードの向きには関係なく)絵の具などが「飛び散っている」ことに言及したりする人がいるためである。したがって、この種のmが1個程度出現する場合は、頻度のみならず、カー

ドの色彩や形状に照らして、特別に問題視する必要もない。

内容

Xカードの反応内容はきわめてヴァリエティに富んでいる。それぞれに形を見出しやすい複数のD領域が存在しているためである。内容の頻度として特に多いのは、D1の「クモ」、D9の「カニ」「昆虫」「カエル」、D8の「魚」、D13の「昆虫」等の動物反応（A）である。これらをひとまとめにして、カード全体を動物の集合と見なす人も少なくない。あるいは、D1やD6等を「サンゴ」に見立て、D8やD9に「カニ」や「魚」を見て、全体を「海の生き物」（A）とまとめる人もいる。さらには、カード全体の明るくてにぎやかな印象からか、動物や魚たちが集合して「祭り」や「宴会」をしていると見なす人もいる（この場合は〔A〕とスコア化されることが多い）。いずれにせよ、動物像が複数出現するのがこのカードの特徴の1つである。

また、D13+D6に対する人間像（この場合はD13が頭となる）、D3に対する非現実的な人間像（逆位置にして「天使」と見なされることが多い）も、相当の頻度で出現する。さらに、D2を「目」、D3を「鼻と髭」に見立てた人間の顔（Hd）が、健常者のグループでかなりの高頻度で出現している。逆位置にすると、D2を「目」、D3を「眉」、D5を「口」と見なした「顔」反応も成立する。空白領域も含め、カードの広い領域を使った「顔」反応は、従来、良いサインとはみなされてこなかった。しかし、Xカードに限っては、実際の頻度に照らすと、この種の反応が決して特異なものではないことが確認できる。

まとめと課題

本研究では、432人の健常者の与えたロールシャッハ反応から、主として各カードに対する反応の一般的な傾向を探った。カードに対する好悪、その際に述べられたカードの印象や感想、反応拒否や失敗のあり方、反応数、反応時間、そして領域・決定因・内容の諸点から、その反応のあり方を眺めてみると、全10枚のカードそれぞれの特徴が鮮明に浮かび上がった。

周知のとおり、テスト結果を質的に検討する系列分析（sequence analysis）は、各人がそれぞれのカードに与えた反応を、一般的な反応傾向に照らしてその特徴を分析していく方法である。それゆえ、多くの健常者の与えた実際の反応に基づき、一般の傾向たるものを押さえておくことが大切である。本研究の提供する基礎データが、系列分析の有効性を高めるのに役立つことを期待したい。

しかし先述のとおり、本研究のデータを構成する健常者は比較的若く、しかも教育水準が高いという点で偏りがある。敢えていうまでもないが、本当の意味での規準（norm）を確立するためには、今後はこの偏りを減ずるべく、さらに幅広くデータを収集することが求められる。

文献

池田央（1981）．検査．藤永保 編 心理学事典．平凡社．219-223．

Exner, J. E., Jr. (2003). The Rorschach; A comprehensive system: Vol. 1. Basic foundation and principles of interpretation (4th ed.). New York: Wiley. [中村紀子・野田昌道監訳（2009）．ロールシャッハ・テスト：包括システムの基礎と解釈の原理．金剛出版．]

片口安史（1987）．改訂 新・心理診断法：ロー

- ルシャッハ・テストの解説と研究. 金子書房.
- Meyer, G. J., Viglione, D. J., Mihura, J. L., Erard, R. E., & Erdberg, P. (2011). Rorschach Performance Assessment System: Administration, coding, interpretation, and technical manual. Toledo: Rorschach Performance Assessment System. [高橋依子監訳・高橋真理子訳 (2014). ロールシャッハ・アセスメント・システム：実施, コーディング, 解釈の手引き. 金剛出版.]
- 西尾博行・高橋依子・高橋雅春 (2017). ロールシャッハ・テスト統計集：数値の比較検討と解釈に役立つ変数データ. 金剛出版.
- 高橋雅春・高橋依子・西尾博行 (2002). ロールシャッハ形態水準表—包括システムのわが国への適用. 金剛出版.
- 高橋雅春・高橋依子・西尾博行 (2009). ロールシャッハ・テスト形態水準表. 金剛出版.

General Response Tendency of Non-patient to Each Card of the Rorschach

Yuji TAKASE

ABSTRACT

This study mainly investigated the general tendency of the Rorschach responses to each card based on the protocols presented by 432 non-patients. Responses were analyzed in terms of card preference, the impressions of the cards given at the time, the characteristics of rejection and failure, number of responses, response time, locations, determinants, and contents. Based on the statistical data, a detailed analysis of the response patterns in the non-patient group revealed the characteristics of each of the ten cards. The findings of this study were considered useful as basic data for sequence analysis.

Keywords: Rorschach test, Non-patient, Normative data